

# 7

## でんとう 伝統工芸を守る人たち

小田原には  
どんな伝統工芸品が  
あるのでしょうか。



上の写真の品物は、すべて小田原の伝統工芸品です。  
伝統工芸品は、昔から伝わる技術やいろいろな方法で職人さんが作り上げたもので、材料は自然にあるものを使っています。

小田原市は、昔からゆたかな自然にめぐまれ、また、古くから人々の行き来が多い土地がらでした。そのような自然と歴史の中で生み出され、多くの人々によって守られてきた伝統工芸品は、全国的にも有名です。

どのようにつくっているのかな。



いつごろから作り始めたのかな。



どうして小田原でつくられるようになったのだろう。



## 1

しっき  
小田原漆器

生活に役立ってきたしっき漆器

小田原しっき漆器には  
どんな特色が  
あるのだろう。

しっき漆器は、日本各地で作られています。小田原しっき漆器の特色は、木の自然の木目をそのまま生かしているところです。よく使われる木はけやきで、木地職人が木を器の形にして、ぬりし職人がうるしをぬって仕上げていきます。

小田原しっき漆器が作られ始めたのは、今からおよそ500年前といわれています。箱根や伊豆には（木材やうるしなど）たくさんの良い材料があり、木地を作る職人が集まっていた。小田原でしっき漆器づくりの技術が発達したのは、北条氏康の時代に、うるし職人が全国から集まってきたからだそうです。また、小田原は東海道の宿場町として人々の行き来が多かったことで、生活によく使われる小田原しっき漆器は一気に有名になりました。

## うるしのこうきん作用

小田原しっき漆器はすべて天然の原料で作られています。うるしはうるしの木のじゅ液です。

いっぱんの人にはさわるとかぶれるので、気をつけてください。最近の研究で、うるしにはこうきん効果があることが分かりました。大ちょう菌などは1日たてばゼロになってしまうそうです。

しっ き  
小田原漆器のできるまで

き し し  
木地師の仕事

あ ら  
① 荒引き



あ ら  
荒けずりをする



かんそう室でかんそうさせた後、  
さらに自然かんそうさせる



あっというまに形  
ができていくよ。

すごい！きれいな  
仕上がりだね。



き し し  
② 木地しあげ



道具を使って形が整うまで、うら側と表側をけずる



やすりを使ってみがく



なめらかな木地ができあがる

**ぬりし 塗師の仕事（すりうるしの場合）**

①すり(ぬり)

すりうるしをはけでぬる。  
ぬりむらがないようにする。



つやつやして、  
きれいだね。



②かんそう

風呂でかんそうさせる。  
うるしは一日一回しかぬる  
ことができない。



せっかくぬったのに、  
どうしてけずっちゃう  
のかな。



③とぎ

よく日うるしをすいこんで  
けば立った木地をろくろで  
回し、目の細かいやすりで  
なめらかにする。



次ページ  
④仕上げへ

## ぬりによる表面の変化

### ④仕上げ

といでなめらかになった木地の表面に、もう一度うるしをぬる。



◀木地

うるしぬり一回目▶



◀うるしぬり二回目



うるしぬり三回目▶



◀うるしぬり四回目



塗師は①から④を、3回、4回・・・とくりかえす。そうすることで、だんだんと色のこいじょうぶな漆器ができあがる。

何回もぬると、つやがでてきれいだね。



すごく手間がかかるんだね。



## 小田原漆器しっきのこれから

小田原漆器しっきが受けつがれていけるように、どんな努力をしているのでしょうか。

### 伝統工芸士の大川さんの話でんとう

小田原漆器しっきを作る職人しよくにんには、木を削り器けずを作る木地師きじしと、その器にうるしを塗る塗師ぬりしがいます。どちらの仕事も、体でおぼえなければなりません。10年くらい修行して一人前と言われますが、使う木のじょうたいや温度によって、うるしのじょうたいも変化してしまうなど、何年たっても勉強が必要です。そのため、自分で満足する漆器しっきができたときの感動もあります。小田原漆器しっきの伝統でんとうを守っていくためにも、若い職人しよくにんさんを育てていくことが大切です。ものづくりが好きな人は、ぜひ、後継者こうけいしやとして挑戦してみてください。そうすることで、小田原漆器しっきの伝統でんとうは続いていくはずですよ。

1人前の職人さんになるには大変なんだね。



たくさんの人に伝統工芸でんとうを知ってもらえるといいね。



漆器しっきの体験教室を開いてくれているんだね。



### 小田原漆器しっき体験教室



## 2

よせぎざいく  
箱根寄木細工

箱根寄木細工は、  
どうやってつくられて  
いるのかな。

よせぎざいく  
寄木細工ができるまで

きれいなもようです  
ね。これらは、箱根寄  
木細工のせい品です。  
見たこと、使ったこと  
があるという人もいる  
かもしれませんね。と  
ころでこのもようは、  
どうやってつけたので  
しょう。筆などで線  
をかいったり色をつけたり  
したのでしょいか。



箱根寄木細工は、江戸時代の終わりごろ、箱根畑宿の石川仁兵衛とい  
う人によって作り出されました。箱根山は、日本の中でも特に木の種類  
が多い地いきです。いろいろな種類の木のかけらをよせ集めてもようを  
つくり、それをかんなでうすくけずり、箱などにはり合せたものです。  
明治時代になって、技じゅつが発達して、ふくぎつな連続もようが何百  
種類もつくられるようになりました。

箱根寄木細工は、昭和59年に「伝統的工芸品」に指定されました。

## 主な模様

ろっかくあゐのは  
六角麻の葉ひしあゐいは  
菱青海波からみます  
からみ枡いちまつ  
市松にくずし  
二崩しらんよせぎ  
乱寄木しっぽうやばね  
七宝矢羽あやがた  
紗綾形



① <sup>せんざい</sup>選材  
使う木を選ぶ

どの色の木を  
使おうかな。



② <sup>きど</sup>木取り  
板加工する



さらにうすく切る



③ 部分切だん  
部材を決められた形・大きさに切る



かんなでけずる



④ <sup>よせぎ</sup>寄木 その1  
切った部材を <sup>せつちやく</sup>接着ざいではりつけ、ゴムで  
しばって一つのもようをつくる



すきまがないように、  
しっかりはり合せる  
んだよ。





⑤寄木 その2  
プレスし、単位もようをつくる



⑥横切り  
単位もようを一定の長さに切る



⑦寄木 その3  
単位もようを接着して、連続もようをつくる



⑧経木けずり加工  
種木を特別なかなでうすくけずる



⑨はりつけ  
せい品になる木地にボンドではりつける



どんなところが大変ですか。

作っていてうれしいことはどんなことですか。

これからどんな作品を作っていきますか。



### つゆき 露木さんのお話

材料となる木材を集めるのが大変ですね。材木屋さんでは売っていないことが多いので、必要な色の木材が見つかったときに連らくをしてもらって買うようにしています。

また、寄木細工を作るには、いくつもの細かい作業が正かくにできなくてはけません。

ですから、一人前の職人になるには10年はかかります。

自分のイメージどおりの作品ができあがったときが一番うれしいですね。これからも、ふだんの生活の中で使ってもらえるような作品を作ったり、新しい作品にちょうせんしたりしていきたいと思います。

3

その他の<sup>てんとう</sup>伝統工芸品

もくぞうがん  
木象嵌



くみきざいく  
組木細工



こうげい い もの  
小田原工芸鑄物



小田原ちょうちん



もっとくわしく  
調べてみたいね。

